

【研究 A】

タイトル：緩和薬物療法認定薬剤師による介入指導の実態調査および非認定薬剤師との比較検討

◇研究目的と意義：

緩和ケア領域において、オピオイドをはじめとした薬物療法は重要な位置を占めている。そのためチーム医療における薬の専門家として、緩和薬物療法に精通した薬剤師の養成および活躍が望まれており、日本緩和医療薬学会は2010年より緩和薬物療法認定制度を実施している。認定取得には、緩和薬物療法における症例提示や研究活動、筆記試験の合格など複数の条件を満たすことが必要となる。一方で、認定習得後の患者介入における実態調査やその有効性について非認定薬剤師との比較はこれまでに行われていない。

そこで本研究では、日本緩和医療薬学会に登録している薬剤師に対してアンケート調査を行い、認定薬剤師、非認定薬剤師に分類した比較検討することで、緩和薬物療法認定薬剤師の介入指導について有用性を評価する。

◇研究の科学的合理性と根拠

本研究では、緩和薬物療法認定薬剤師および非認定薬剤師による身体および精神症状に対する関わりの現状について、の実態調査を行う。本邦において、緩和薬物療法認定薬剤師の有用性を評価した調査はなく、本認定制度、および、本認定薬剤師の有用性や意義を確認するための重要な研究であることが、本研究を実施する科学的合理性と根拠である。本研究の調査結果を分析・評価することで、緩和薬物療法認定薬剤師の介入指導により、緩和薬物療法を受ける患者の身体および精神症状の改善が期待できる項目を明らかにするとともに、非認定薬剤師と比較して介入の実態に差がない項目を抽出する。この認定薬剤師と非認定薬剤師との比較で介入の実態に差がない項目は、緩和薬物療法認定薬剤師による介入指導の質を改善すべき項目である。このような項目を今後の教育プログラムなどに反映させることで、緩和薬物療法における介入指導の質の向上に繋げることが可能となる。緩和薬物療法認定薬剤師による介入指導の実態を明らかにすることで、緩和薬物療法認定薬剤師の有用性や意義を明らかとするとともに、介入指導の質の向上を目指す。

◇方法

1) 研究のデザイン

Google フォームによる無記名 Web アンケートを用いた横断研究

2) 対象

日本緩和医療薬学会に会員登録を行い、かつ緩和薬物療法認定資格を取得した薬剤師
(以下、認定薬剤師)

日本緩和医療薬学会に会員登録を行い、かつ緩和薬物療法認定資格を取得していない
薬剤師 (以下、非認定薬剤師)

3) 研究の方法

適格基準に該当する者に対し、本研究の説明文書を学会 HP への掲示およびメール送信にて周知する。本調査への協力は自由意思によるものとし、Web ページに入力した回答を電子媒体にて回収する。

4) 観察・検査・報告項目

Google フォームを用いた Web アンケート